

冬期テキスト

必修編

国語

中学 **2** 年



第7

講座

古典 — 古文の読解・漢文の知識

学習日 月 日

確認問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

① 宇治殿、葉二といふ笛を伝へ持たれたりと聞こしめして、内裏よりある蔵人して、かの笛を召されけるに、御使は、御はふたつ、召しある由ばかりを申して、笛といふことを申さざりければ、老後に齒二つ、召され候ふこと、術なき由、御返事に奏せられたりけるも、一つの不思議か。〔十訓抄より〕

〔注〕 宇治殿＝藤原頼通。 伝へ持たれたり＝伝え持っている。

聞こしめして＝（帝が）お聞きになって。 内裏＝天皇。 術なき＝どうしようもなくつらい。

問1 仮名遣い — 線①「宇治」、— 線②「蔵人」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

①

②

問2 主語 — 線③「申さざりければ」、— 線⑤「奏せられたりける」の主語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 宇治殿 イ 葉二
ウ 蔵人 エ 内裏

③

⑤

問3 内容理解 — 線④「御返事」の内容を書きなさい。

2 次の漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

子曰、「吾嘗終日不食、終夜

不寝、以思無益。不如学也。」

子曰はく、「①、終夜寝ねずして、以て思ふ益無し。学ぶに如かざるなり。」と。

〔論語より〕

問1 書き下し文 — 線①「吾嘗終日不食」を書き下し文に直しなさい。

問2 返り点 — 線②「不如学也」に、書き下し文を参考にして、返り点を付けた文を書きなさい。

不如学也

問3 古典常識 文章中の「子」とは誰のことか、漢字二字で書きなさい。

問4 内容理解 この文章の内容をまとめたものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ただ学ぶことは、食べることに及ばない。
イ ただ食べることは、寝ることに及ばない。
ウ ただ寝ることは、思索することに及ばない。
エ ただ思索することは、学ぶことに及ばない。

要点のまとめ

1 古文の読解

1 歴史的仮名遣いに慣れる。

2 古文の言葉を理解する。

・現代語にはない言葉

・現代と意味の異なる言葉

3 古文を読む。

助詞や主語の省略や、主語を示す

助詞「の」、引用を示す助詞「と」、

係り結びなどに注意し、動作の主

体や会話の内容を捉えながら読む。

4 主題を捉える。

2 漢文の知識

1 文の種類を知る。

白文＝漢字のみの文。原文。

訓読文＝白文に訓点（送り仮名と

返り点）を付けた文。

書き下し文＝訓読するとおりに書

き表した漢字仮名交じりの文。

2 送り仮名と返り点を知る。

送り仮名＝漢字の右下の片仮名。

返り点＝レ点、一・二点など。

3 漢字を読む順序に注意して読む。

基本問題

① 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

姜詩は母に孝行なる人なり。母つねに江の水を飲みたく思ひ、また生魚の鱸をほしく思へり。すなはち姜詩妻をして六七里の道を隔てたる、江の水を汲ましめ、また魚の鱸をよくした、めて與へ、夫婦ともにつねによく仕へり。ある時姜詩が家の傍に、忽ちに江の如くして、水湧き出で、朝毎に水中に鯉あり。すなはちこれを取りて母に與へ侍り。かやうの不思議なることのありけるは、ひとへに姜詩夫婦の孝行を感じて、天道より與へ給ふなるべし。〔二十四孝より〕

(注) 江Ⅱ大河。 鱸Ⅱ細く薄く切った肉。 天道Ⅱ天地を支配する神。

問1 古語の意味 — 線①「すなはち」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そこで ウ たとえば エ しかし

問2 仮名遣い — 線②「仕へり」、線③「かやうの」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

② () ③ ()

問3 主題 — 線④「不思議なること」についてまとめた次の文のA、Cに当てはまる言葉を古文中から抜き出し、それが起こった理由を筆者がどう考えているかを簡潔に書きなさい。

A の家のそばに B が湧き出で、毎朝 C がとれるようになった。

A	
B	
C	

② 次の漢文、書き下し文、現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。〔青森〕

〔漢文〕

往時、遼東有豕、生子白頭。異而献之。

① 行^{キテ}至^リ河^ニ東^ニ、見^テ群^ノ豕^ノ皆^{キヲ}白^{キテ}、懷^{キテ}慙^ヲ而^ル還^ル。

〔書き下し文〕

往時、遼東に豕有り、子を生まて白頭なり。異しみて之を献ぜんとす。

① 群の豕の皆白きを見て、慙を懷きて還る。

〔現代語訳〕

昔、遼東地方に豚がいて、子を産んだところ、子豚の頭が白かった。これを見た人が、珍しいと思って王に献上しようとした。河東地方まで行つて、群れになっている豚の頭が皆白いのを見て、恥ずかしく思つて帰つてきた。

〔後漢書〕より

問1 書き下し文 — 線①「行^{キテ}至^リ河^ニ東^ニ」を書き下し文に直しなさい。

問2 内容理解 — 線②「群の豕の皆白きを見て、慙を懷きて」とありますが、恥ずかしく思つた理由を簡潔に書きなさい。

問3 主題 この文章から、後に「遼東の豕」という言葉が生まれましたが、この言葉はどのようなことをいひしめようとしたものですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア みえつぱり イ ひとりよがり
ウ いじつぱり エ へそまがり

演習問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

＊かめやまじの 龜山殿の御池に、大井川の水をまかせられんとて、大井の土民に仰せて、水車を造らせられけり。多くの錢を給ひて、数日に営み出だして、掛けたりけるに、大方廻らざりければ、とかく直しけれども、終に廻らで、徒らに立てりけり。さて、宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかにゆひてまゐらせたりけるが、思ふやうに廻りて、水を汲み入る事、めでたかりけり。万にその道を知る者は、やんごとなきものなり。

（徒然草より）

（注） 龜山殿＝京都市右京区にあった、後嵯峨上皇・龜山上皇の離宮。

大井川＝京都・嵐山のふもとを流れている川。

まかせられんとて＝（上皇が水を）お引きになろうとして。

土民＝その土地の人。 仰せて＝お言いつけになつて。

錢＝金。 営み出だして＝こしらえ上げて。 大方＝全然。

とかく＝いろいろと。 徒らに＝無駄に。

宇治＝現在の京都府宇治市。昔から水車の名所で知られていた。

里人＝その里（土地）の人。

やすらかにゆひてまゐらせたりけるが＝やすやすと組み立ててさしあげたが。

めでたかりけり＝みごとであった。 やんごとなきもの＝たいしたもの。

問1 主語 — 線①「給ひて」、— 線③「直しけれ」の主語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 大井の土民 イ 上皇 ウ 宇治の里人 エ 筆者

① ☐

③ ☐

問2 古語の意味 — 線②「大方廻らざりければ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほとんど回らなかったけれど イ ほとんど回らなかったのに
ウ まったく回らなかったなら エ まったく回らなかったのだ

☐

問3 仮名遣い — 線④「まゐらせたりける」、— 線⑤「思ふやうに」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

④

⑤

問4 内容理解 この古文を内容から三つに分けるとすると、どこで区切るのが適切ですか。二つ目のまとまりの初めと終わりの五字を抜き出さない。

問5 主題 この文章で、筆者は何を述べようとしていますか。三十字以内で書きなさい。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

＊はしたなきもの。異人を呼ぶに、われぞとてさしいでたる。物などとするをりはいとど。おのづから人の上などうち言ひそしりたるに、幼き子どもの聞き取りて、その人のあるに言ひいでたる。あはれなることなど、人の言ひいで、うち泣きなどするに、げにいとあはれなりなど聞きながら、涙のつといで来ぬ、いとはしたなし。泣き顔つくり、けしき異になせど、いとかわひなし。めでたきことを見聞くには、まづただいで来にぞ。

（枕草子より）

（注） はしたなきもの＝きまりの悪いもの。 異人＝他の人。

物などとする＝何かをくれる。何かを与える。 いとど＝ますます。

おのづから＝たまたま。 人の上＝人のうわさ話。

うち言ひそしりたるに＝なんとなく悪口を言っていること。

言ひいてたる〳〵言いだした。 げに〳〵本当に。実に。
けしき異になせど〳〵様子を变えても。 かひなし〳〵ききめがない。無駄だ。
めてたきこと〳〵すばらしいこと。 まづ〳〵まづ先に。むやみに。

問1 仮名遣い — 線①「をり」、 — 線③「おのづから」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問2 内容理解 — 線②「いとど」の後に、ある言葉を補うと意味がわかりやすくなります。その言葉を文章中から五字で抜き出しなさい。

問3 内容理解 — 線④「言ひいてたる」とありますが、これについてまとめた次の文の□ A〜Cに当てはまる言葉を、Aは文章中から抜き出し、Bは後から一つ選び、Cは考えて書きなさい。

たまたまうわき話でなんとなく人の悪口を言っていたところ、□ A が聞き取って、□ B がいる時に、その□ C を言いだしてしまう。

ア 異人 イ 悪人 ウ 当人 エ 筆者

A	B	C

問4 古語の意味 — 線⑤「あはれなる」のここでの意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア すばらしく感じられる イ いとおしく思われる
ウ 物悲しく感じられる エ ありがたく思われる

問5 内容理解 — 線⑥「かひなし」と筆者が思う理由を簡潔に書きなさい。

問6 係り結び 古文中の□ に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いで来 イ いで来よ ウ いで来れ エ いで来る

③ 次の漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

*馬良字季常、襄陽宜城人。兄弟五人、

並有^ニ才名。郷里為^ニ之^ガ諺^{シテ}曰^{ハク}、「馬氏五常、

白眉最良。」良眉中有^ニ白毛。故以^ニ称^ス之^ヲ。

〈「蒙求」より〉

馬良、字は季常、襄陽宜城の人なり。兄弟五人、
為^ニ諺^{シテ}して曰^{ハク}はく、「馬氏の五常、白眉最も良し。」と。良の眉中に白毛有り。
故に以て之を称す。

(注) 馬良は中国の三国時代、蜀の劉備の臣。
五常は五人兄弟のすべての字に「常」の字が含まれることから、五人兄弟のこと。

問1 書き下し文 — 線①「並有^ニ才名」を書き下し文に直しなさい。

問2 内容理解 — 線②「之を称す」とありますが、「之」が指しているものを漢字二字で書き、「之を称す」理由を簡潔に書きなさい。

問3 主題 この文章からできた故事成語を漢字二字で書き、その意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 必要以上に、あれやこれやと心配すること。
イ 多くの優れた者の中で、最も優れている者のこと。
ウ 詩や文章の言葉を、繰り返し練り直すこと。
エ まるで欠点がなく、非常に優れていること。

弊社サンプルをご覧ください、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本^{*}と目次をご覧ください。

※一部教材を除く

会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ



■ Bunri Teachers' Siteへのご登録には弊社発行の招待コードが必要です。
■ 本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。あらかじめご了承ください。